ヴァルキリーコミックス
恋獄島
れんごくじま
2
～極地恋愛～
九部玖凛
原作：七色春日
キャラクター原案：魁李
DL-Raw.Net

DL-Raw.Net

[Comic]
九部玖凛
【くぶ・くりん】

「無人島に何か一つだけ持って行けるなら、
何を持っていく?」って話がありますが、
前は「ライター」とか「衛星電話」とか
考えていましたが、今は「鉈」です。
柄に火打ち石が付いていて、
方位磁石が組み込まれた鉈です。

[Original]
七色春日
【ないろ・かすが】

近頃、ドリアンを食す機会があり。
食べるときは悪臭で苦しいのですが
クリーミーで甘く、なめらかな食感でした。
しかし、私は奴の真の恐ろしさを知りませんでした。
食べ終わって油断した食後も、
胃の腑から、悪臭が襲ってくるんですよ……。
二巻目です。どうぞよろしくお願い致します。

倫理ですか…くだらない
あいにくそれらには興味がないですね

義侠心？倫理？
だったらヒロちゃんが行けばいいじゃ
ないですか…

w.Net

恋狱島
～極地恋愛～

目次
CONTENTS

第六話　冷血奔流(2) …… 007

第七話　冷血奔流(3) …… 031

第八話　一鬼夜行(1) …… 059

第九話　一鬼夜行(2) …… 091

第十話　一鬼夜行(3) …… 115

第十一話　一鬼夜行(4) …… 143

w.Net

ナデナデ

一度選んで
しまった
選択は…

お兄ちゃん…

もう結果は
変えられない

もっと
考えておけば
良かったなんて

その選んで
しまった
選択が…

そう思ったことは
何度もあったけれど

ただ…

はぁ…

DL-Ra

ギリ…
取り返しの
つかない結果を
生み出した場合…
ギリ…
ギリギリ…
ギリ…
one's own decisions
正しいと思って選んだ選択とは…

第六話 冷血奔流(2)

DL-Ra

ヒロちゃんっ——

!

おはようございます

あぁ…おはよう

w.Net

昨日も
夜遅くまで作業を
していたんですか？

あぁ…
いい感じの石を
浜辺で見つけたから
作ってみたんだ…

石斧

ヒロちゃんは
そのうち鉄器も
作りそうですね…

グラインディングでも
マイニングでも
しますわ

いつまでも
ナイフ一本じゃ
心もとないしな…

それはそうと
今日は私がサービスで
朝ごはんを
用意しました

やっぱりこの辺は
夜釣りが
当たりでしたね

どおりで…
朝から機嫌が
いいわけだ…

DL-Ra

ドド
これは
「めでタイ」
二十点
五点
じゃあ
ここは？
ふむふむ
…

「ヒタイ」

額(ひたい)

ねえ…
なんなの
このゲーム

では
これは？

ヒロッ

「ミタイ」

ちょっとッ

んふっ

見たいっ!!!

わかりませんか？
ちょっとした
コミュニケーション
ですよ

わかんないわよ
そんなことっ!!

DL-Ra

これからは
みんなで生活して
いかないと
いけないのですから

どうしたの
急に…

こういう
じゃれ合いも
必要なんですよ

いやなに…
単独行動だと
危険度が増した
だけですよ

そう…この島には敵がいます

まぁ確かに
女の子の一人歩きは
まずいわな…

そして
じゃれ合いは
もっと大事だ

と…
言うわけで

タイは
小骨が多いので
私が捌きますね

バジルで
味付けをすると
爽やかな口当たりに
なります

異論は
ありますか？

ああ…
じゃあ俺の分を
少し多めで
貰えるかな？

おや？
ヒロトさんにしては
珍しい…

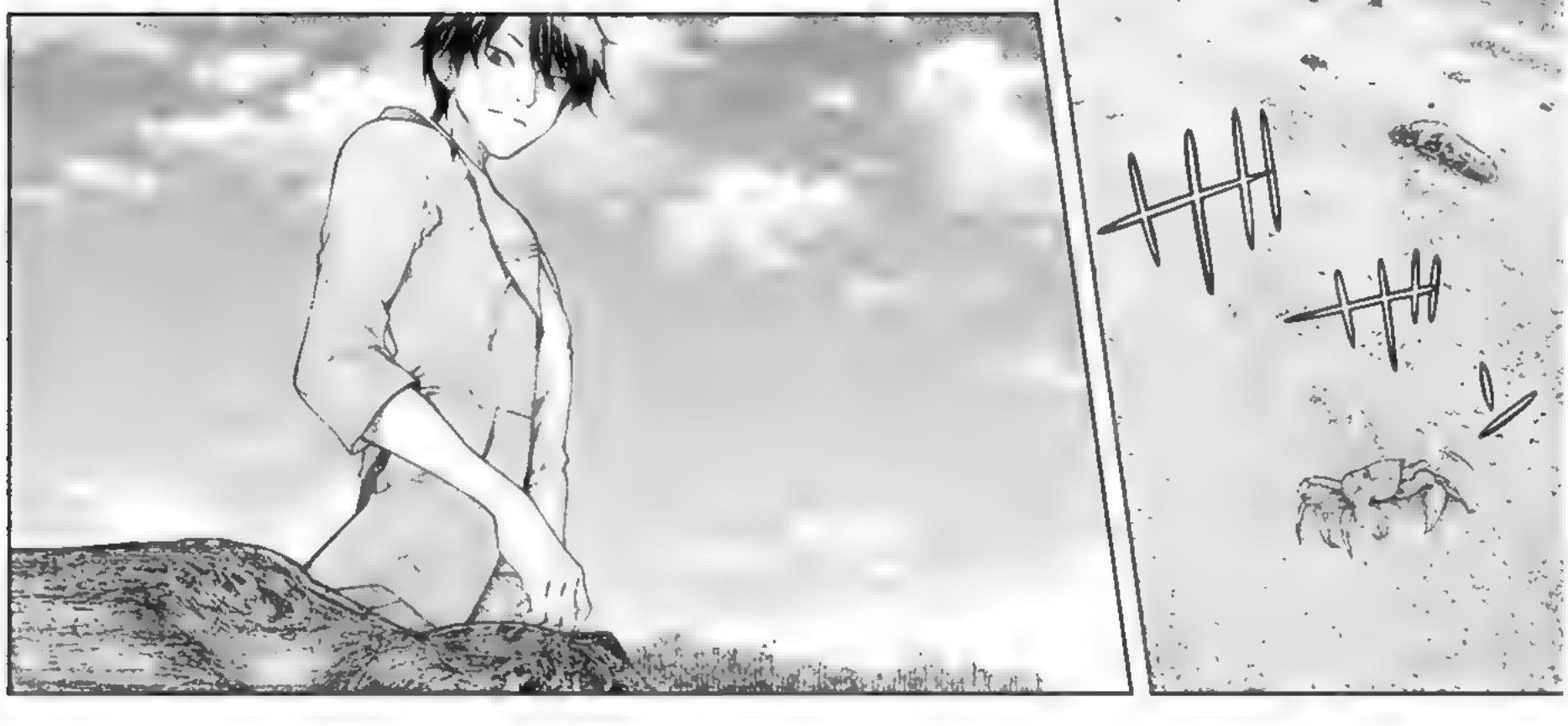
はいっ！
はーい！
俺も特盛りで
お願いしまーすっ！

魚派でしたか

カラミヤサンは
ダメでーす

そんな…
ヒロトだけ
狡いぞ――

おはは



ヒロトさん？
あぁ…
すまない

「ヒロトさん」
…か

俺は美菜(みな)の
気に触ることを
したのだろうか…？

どう
思います？

普通に
考えたら

俺達の誰かが
やったと思うが…

スッ

犯人が
馬鹿に思える程に
明確な足跡があるな…

派手に動けば
引き寄せられるかと
思って

探索も兼ねて
昨日ヒロトさんと
遊んだのですが…

気が付いたのは
昨日ですね

いつからだ？

だーれも
出てこなかったん
ですよね…

はあ

鬼ごっこに
そんな裏事情が
あったなんて
知りたくなかったよ

道理で…
鬼力的な探索が
あったわけだ…

それにしても
でかいな…

俺もそうだが
唐宮も
当てはまらない…

この大きさから
しても背丈は
あるだろうし

重量も
ありそうだ

それに…
こいつは
足が悪いか

あるいは
履き慣れていない靴
だったのか？

歩幅間隔が
一定ではないのは

酩酊しているのか？
興奮しているのか？

足跡をわざわざ
残すなんて…

余程
自信があるのか
メッセージか？

それとも
ただの間抜けか
…

まぁ…
それにしても
派手だよなぁ…

そこかしこに
「殺(や)るぞっ」て
意思を感じる…

そうですね
血気盛んな犯人さん
なんでしょうか…

それは
わからないが

変では
あるよな…

変…とは？

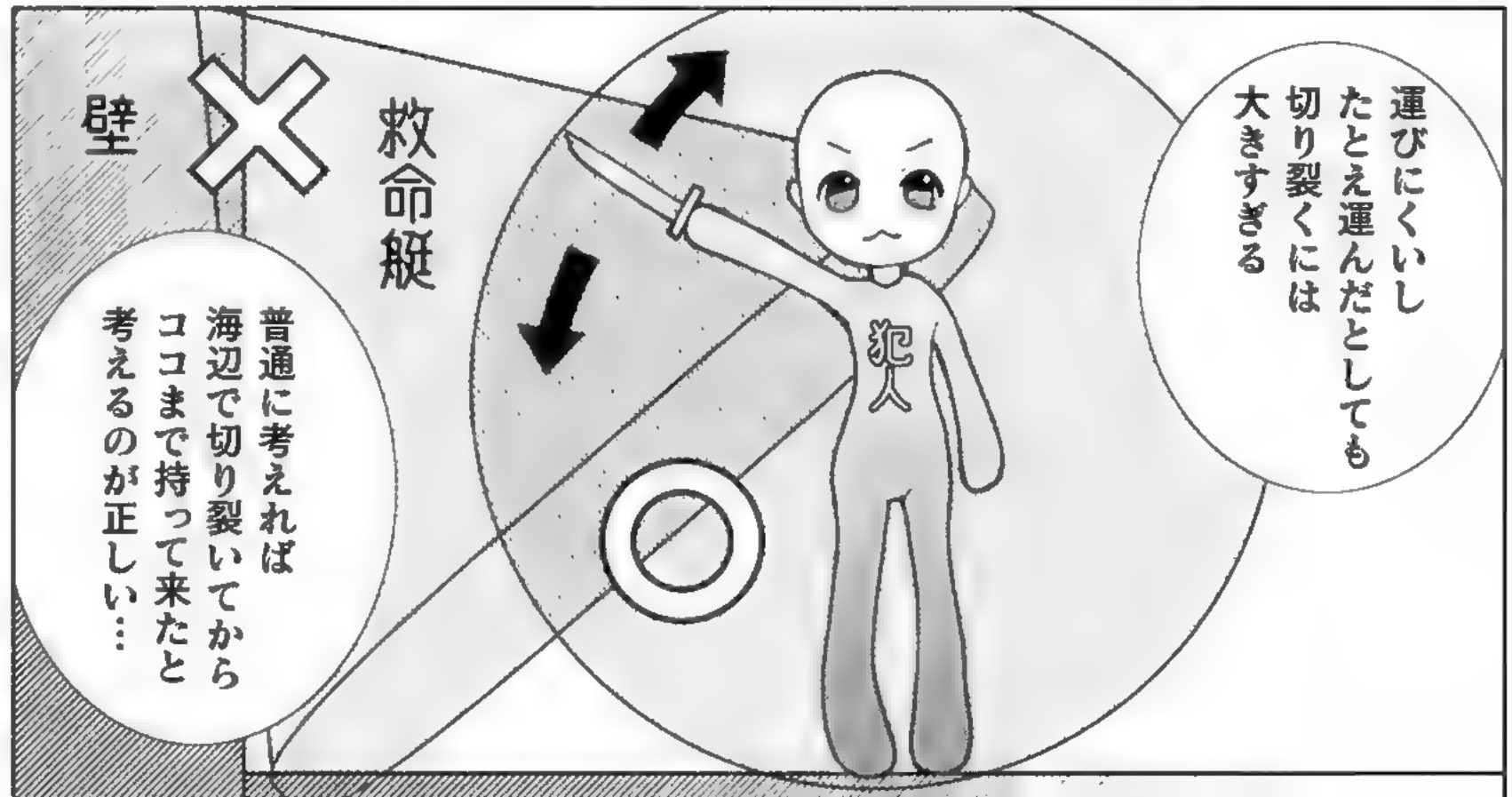
そうだな
例えば…

…と見た感じ
こうやって
切り裂かれたように
思えるが…

しかし空気を
入れたままに
置いてあった
救命艇を

ここまで
持ってきて
切り裂いたとは
考えにくい

運びにくいし
たとえ運んだとしても
切り裂くには
大きすぎる



普通に考えれば
海辺で切り裂いてから
ココまで持って来たと
考えるのが正しい…

だとすると…
この傷は
そう見えるように
装飾したことになる…

空気を抜いてから
運んで切ったのかも
しれませんよ

それこそ
血気盛んな割には
冷静な行動だよな…

まぁ趣味嗜好による
奇怪な行動かも
しれないが…

これで希望が
湧いて来た…

？
どういうこと
ですか？

そりゃ
捕まえれば
この島から出られる

少なくとも
この浜辺りでは
人がいた形跡は
無かった

つまり犯人は
外部から来たと
考えられる…

それこそ
内陸から来たかも
しれませんよ

そうだとしても
海に出られる
希少な道具を

こんなことをしても
困らない程度には
他の手段があると
考えてもいい…

そうなると
島の外周を確認する
必然性が更に増して
きたんだけど…

その前に
この犯人を
どうするか…

……

では…真っ向から殺り合いますか？

曲がりなりにも俺達は文明人だ

そこは法規的に則(のっと)って行動して欲しいな…

例えば？

そうだな…幸い相手のお頭(つむ)はよろしくなさそうだから…

罠に嵌(は)めて仕留める？…とか

なるほど文明的ですねぇ…

ア

ア

ン

さすがヒロトさん
慎重な所というか
分析の仕方が

ベーカー街に住む
どこかの探偵さん
のようです…

あんな名推理が
できるのなら

俺もコカイン中毒に
なってもいいかな…

それにフロイトに
精神鑑定を
してもらえるのも
魅力的だ…

大麻草の群生は
見つけてますよ

採集して
おきましょうか？

…

葉と茎はいい…
種だけ集めて
おいてくれ…

種は枯れば
油になるからな…

それは残念です
ひと財産に
なりそうな
匂いがするのに…

……
やめとけ…

ア

こんな時だからこそ
何かしらの血肉に
したいんですよ…

こんな時でも
前向きだな…

ふー

110A
110A

そうですか？

!!

前にも
ふと思ったことが
あったが…

美菜は
どこか妹(キリ)に
似ている…

？

どうか
しましたか？

妹(キリ)は…こんなに
明るく笑ったことは
無かったが…

いや…
なんでもない

ドン
この先
俺は選ぶことが
できるんだろうか…
ドン

あの日…
間違っていないと
考えて取った
行動に…

気遣(きづか)えなかった
心で…

かけることが
できなかった
言葉で…

妹(きり)を…自殺に
追い込んでしまった
この俺が

選ぶことが
できるん
だろうか…？

この無人島で生(い)き抜(ぬ)く正しい選択を…

第六話 冷血奔流(2) END

第七話 冷血奔流(3)

ザッ

ザッ

ザッ

わざわざ救命艇を壊しに来た犯人だ

こんな移動手段があればまた壊そうとして寄ってくるかもしれない

Culprit

×

Bamboo spear

そうしたら竹槍を仕込んだ落とし穴でハメる

容赦するつもりはない…

かかれば確実に動けなくなるはずだ

そうですね…

ん…？

では私は
念の為にそれ(竹)に塗る
毒草でも
摘んできますか…

ヒィッ

毒っ…!?

いや…
死なれたら
困るんだが…

いやですねぇ…

ペロッ

そんな強力な
簡単に作れる
わけないじゃない
ですか…

ニヤ…

せいぜい
痺れるぐらい
ですよ…

簡単に…
か…

作れるんじゃ
ねーか…

アイツの知識は
どのぐらい
あるんだ…？

あのねぇ…
いくら仲間だからって
私の方が年上なのよ…

ルナか…

なにやって
いるのよ…？

せめて
敬意を払って
ルナさんと
呼べないの？

あっ…うん…
すまない
ルナさん

よろしい

これは…？

海水を
蒸留した水よ

朝からずっと
作り続けて
いたんだから

美菜から
与えられた
仕事か…

何も
できそうもない
彼女に
美菜が与えた
仲間に
居させる為だけの
簡単な役割

トッ

この後は
摘んできた
果実を煮込んで

ジャムを
作らなくっちゃ
いけないんだけど

その前に
ちょっと休憩…

ふ〜っ

ずっと
火に当たり
続けていたから
火照(ほて)っちゃって

パタ
パタ
パタ

それでも彼女(ルナ)は
それを文句を
言わずに
こなしている…

ニコ

ちょっと～

あぁ
すまない

全く美菜は
どうやって
彼女を
躾けたのか…

ねぇ…
ヒロト君って
どうして丈と
友達なの？

タイプなんて
全然違う
じゃない…

唐宮とは
ガキの頃からの
付き合いなんだ

ふ…

アイツは
ハッキリしているし
女重視だから
軽い付き合いで済むし

単純で
わかりやすいし
言うことも面白い

なにより
憎めない所が
あるんだ…

ふーん…

馬鹿と組むと死にますよ…

相手に
花を持たせる為に
ワザと小物しか
狙わないような
したたかな人間と…

そんなことに
気が付かずに
はしゃいでいる人間

一体どっちが
格下ってことに
なるんでしょうね…

あれは
負け惜しみの
嫌味だったのかも
しれない…

かも…
しれないけど…

ここ数日
おとなしく
様子を見て
いる限り

ここで
捨てておくのは
マズイのよね…

ねぇ…
少しは
休憩したら

ハッ

こんな
日差しの中
小まめに休憩を
挟まないと
熱中症に
なったら大変よ

そうだな…

そこじゃ暑いでしょ もっとこっちに寄れば？

誰かのパーソナルスペースに入りたくない

君…絶対頭おかしいよね

将来大丈夫？

お姉さん心配だわ…

…親戚が飛行機の部品工場を経営していてそこにお世話になるつもりだ

それって役員待遇？

……まさかヒラ工員だよ

手を動かしていると
何も考えなく良いし
誰とも
喋らなくて済む
いい仕事だよ…

今までの
人生…
心底
愚かな道程を
歩んでいた…

だから…なるべく
人に関わらない
ようにしていって

今では…死ぬまで
このままでいいと
思い始めている…

……

ねぇ…
膝枕して
あげましょうか？

はっ？

何考えて
いるのか
知らないけど

そんな青い顔して
今にも倒れそうよ

いや…俺は

それから
私も地下アイドルは
好きよ

ドキッ

ヒロト君が
言っていた
「足の太い娘が好き」
って言ったら…

グループ
FT1ACの
カナンちゃん
かしら…

なっ！

ふふふ…
驚いているわね

あの時は
ワザと私から
距離を取る為に
口から出まかせを
言ったようだけど

ほらっココに
頭を置いて

すっ

私はそんな
男ばっかりと
接客経験を積んで
きたのよ…

カナンちゃん程
魅力的な
太さじゃないかも
しれないけど

カバンを
枕にするより
マシでしょ

途中経過だけで
繋ぐ為の
話術と

ねっ…

はぁっ…

男を
喜ばせるだけの
テクニック…

ちゅく…

こんなこと
唐宮とモメるから
やめてくれ…

私がすることに
ケチをつけないで

ふふ…
男の子の
匂いがする

私…
嫌いじゃないのよ
この匂い…

それに
私だってタダで
面倒を見てもらう
気はないわ…

このぐらいの情事(こと)…
いつでも
シてあげるわよ…

ふふふ…
こんなことは
美菜(あの子)じゃ
無理でしょ…

んく

だ…
ダメだ…

んく

何も
考えられ
なくなる…

あらがえない…

躰（からだ）の奥から
飲み込まれて
いく感覚…

飲まれて
刺激され…

促される…
強制的に…

はっ

はっ

うっ

ゴクン

ゴクン

はっ

はっ

はっ

ナデ

ナデ

ふっ

ガチャ

ガチャ

うう！

ゼハハ

はっ

ゼハハ

ゼハハ

なぁ…
そろそろ
いいだろ…

わっ！

もう…なぁに？
こんな
日が高い時に…

今は美菜から
ジャムを作って
おいてと言われて
忙しいのよ…

モニュ

モニュ

それに私は
貴方の家族構成も
知らないのよ…

モニュ

こういうことは
お互いをもっと
知ってからって
言ったじゃない…

モニュ

ハロ〜

なら先に
君の家族構成を
教えてくれ
ないかな？

私の母は
躾に厳しい人で
シングルマザー
だったわ

みだりに
肌を見せては
いけないって
いつも言って
いたのよ…

そっか…
やっぱりルナの
お母さんは
しっかりした人
だったんだな…

だけど
俺の気持ちを
考えてほしい…
俺は君のことが
もっと知りたいんだ
君への愛しさで
押し潰されそうなんだっ

でも…
こんな状況で
もし妊娠(デキ)しちゃったら
私だって怖いのよ

そんなの
この島から
出れば…

すぐに
助けだって…

この先
救助は来ませんよ…

はっ

何をビビっている…
そんなことあるわけ
ないだろ…

そ…そうさ…
こんな島
すぐに出ていって
やる…

ほらな…それなら
何も問題ないだろ

それに
俺はちゃんと
することで
有名なんだ…

だから…

そういうことなら
この島から出るまで
一切要求してこなければ
信じてあげる…

日本に戻ったら
受け入れてあげても
いいわ…

ふう…
しょうがないな
わかった
今は諦めるよ…

だけど
デートだけなら
いいだろ？

一緒に星を
見に行こう！

素敵だろ
こう見えても
星座には
詳しいんだ

星を見ながら
ロマンティックな
話をしないか？

まぁ
それぐらいなら
…いいわよ

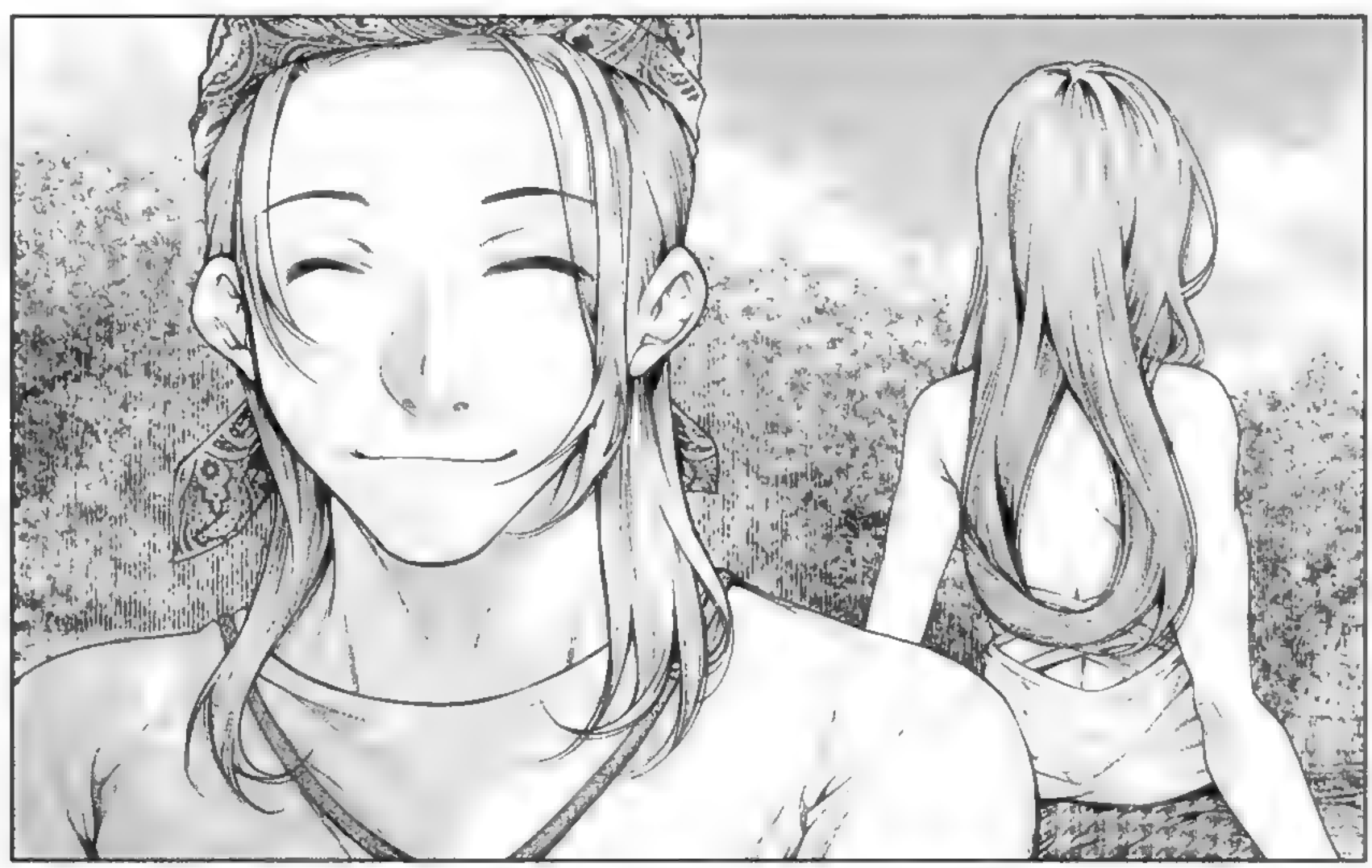
ふう

わーい

やったっ！

じゃぁ
今夜迎えに行くよ

ええ…わかったわ
楽しみにしてる



昨日までは
扱いにくいハムスターを
そっと持ち上げるような
丁寧さだったのに

カラ　カラ　カラ

何があったかは
大体想像はつくが…

それでこの女は
調子に乗って
きやがった

なるほど
この女は誰にでも
躰を売るような女だ…

だったら
未来でも相応の扱いを
受けさせたって
文句はないよな…

第七話 冷血奔流(3) END

ねぇ…
ルナちゃん

女はね 絶対
美しくないと
ダメなのよ…

それが
全てなのよ…

うん
わかっているよ
ママ…

美しくしていれば
パパは帰って来る
んだよね…

痛いっ！

痛いよ
ママッ

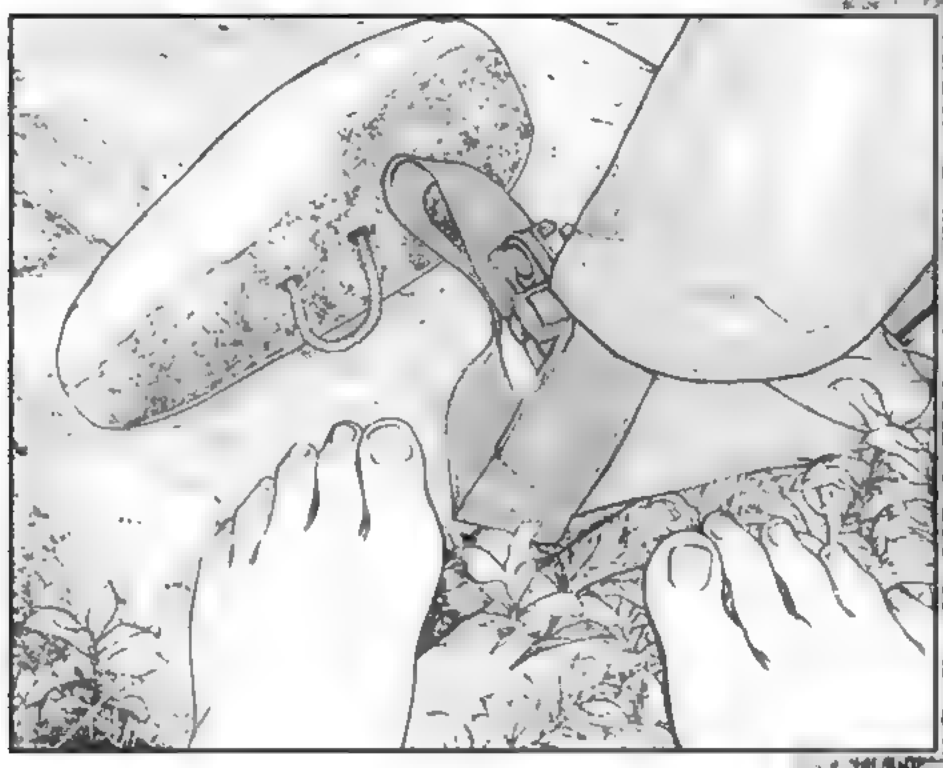
アンタなんか…

ぶるぶる

ぐぐ…

アンタさえ
妊娠しなければ…

第八話 一鬼夜行(1)



母は…

美しく気品がある
女性だったらしい…

しかし
清楚可憐で
夢見がちだった
せいか

両親の反対を
押し切り
十代で結婚し

私を
身籠った…

父は…
それなりに
資産を持った
男で…

ムードや
女性を喜ばせる
サプライズが
上手い人だった

建築デザインの
事業を成功させていた
父は…

不完全なモノや
美的センスに
反するものが嫌いで

母が臨月を
迎える頃…

二人の中は
険悪な状態に
なっていた

それは
母が自分の腹が大きく
なっていくのを嫌い

父も母の容姿が
損なわれると
考えていたからで

そして…それは
そんな二人に対しての
罰だったのか…

平均以上に
大きくなった
私を誕生させる為に
母はメスを入れ

腹部に
永遠の傷を
残し…

父は家に
寄り付かなく
なった

そんな父は
私が初潮を迎え
躰に丸みを
帯び始めた頃

謝罪とともに
巧言を用いて
帰ってきたが

その言葉は
実の娘に向ける
ような言葉でなく

ヘ〃ョ〃

容姿が整っていた私に
無遠慮に向けてくる
他の男達と同じように

淫欲と独占欲に
焦がされた
言葉だった

思い立ったら
突っ走る所は
母に似たのかも
しれない…

皮肉なことに
父から逃げた
私は…

生きる為に男を相手にしなければならない仕事についてしまった…

今夜
星を見に行こう

トン…

断れなかった…

断ればおそらく
もっと強行な手段に
彼は出ていただろう

これも
罰ということ
なのかしら…

ヒロト

話があるんだ

…そうか

キラッ

…俺も話しておきたいことがあるんだ

スッ

トコトコ

いい子だな…

あぁ…
変な所はあるが
いい子だ

可愛らしいし
賢い…

ジョークも
悪くない…

気にいって
いるのか？

あぁ…

だったら
どうして俺の女に
手を出したんだ？

ただ…
一言俺に断って
おくべきじゃないか？
って思うんだ

それが
ルールだろ…

まぁいいんだ…
俺は本気って
わけじゃないからな

そうだな
全面的に
お前の言う通りだ

俺に非がある…
すまなかった

謝らなくたって
いいさ…

俺達は
友達だろ

この島で
生き抜いていくのには
お互いの協力が必要だ

最近…お前(ヒロト)が
俺にムカついて
いたのは
知っているし

俺もちょっとばかり
配慮が足りなかった
かもしれないな…

まぁ俺も友情にヒビを
入れるような真似を
したことは許してくれ

お前の心無い
交渉(こたく)はいい…

で…何をして
欲しいんだ?

そうだな…

今夜は
子猫ちゃんと
別の所に行って
くれないか？

そこで
何をして
いてもいいが
俺の所には
来ないでくれ

ズ…

そうすれば
明日には
俺達は元通りの
関係になる

お前と
子猫ちゃん
そして
俺とルナ…

お互いタッグを組んで
この島から
脱出を目標にした
運命共同体になるんだ…

俺はお前を
友人として
信用している

だが二度目の
裏切りは無いと
思っている

友情は
お互いに敬意を
払うものだからな
…

そ
何
こ

それで
何も無かった
ことにするのか？

何も無かったことに
するのさ…

お互いになっ…

救命艇を
切り裂いた
犯人のことは
話せなかったな…

唐宮(アイツ)は
俺とルナの関係を余程
腹に据えかねて
いるんだろうな…

奴は男女関係での
敗北や屈辱を
許しはしないからな…

それが不可抗力
であっても…
禍根(かこん)を残しかねない

ヒロトさん
話は終わりましたか？

あぁ…
調味料が
欲しいってさ…

おやおや…
カラミヤサンは
グルメさんですね…

それで
相談なんだが…

あぁ…そうだな
魚を干して
鰹節っぽいのを
作ってみるか…

それなら燻製も
いいですね…

今夜…
犯人を見張る為に
一緒にいないか？

……
ヒロトさんは

「男女七歳にして
同衾せず」
って言葉を
知ってますか？

えっ俺はもう一度
ヒロちゃんって
呼んで欲しいだけ
なんだが…

ふむ…

なら…変なこと
しませんか？

ちゅるん

そういう目的で
誘ったわけじゃない

チュパッ

なんというか…
それはそれで
イラつく返答
ですね…

スマン…
今夜だけで
いいんだ

そうすれば…

そうすれば
知り合いの女性が
レイプされると
わかっていても

心は
痛まないと？

!?

俺にとって
それは重要なこと
じゃないんだ

スッ

――お兄ちゃんは
冷たい人なんだよ

あぁ
痛まないな…

どこで誰が
どうなろうと
知ったことじゃない
…からな

へぇ
いいですね…

その返答は
とても
気に入りました

いいですよ
今夜はずっと
一緒にいてあげますよ

ドンドン

ヒロ・・ちゃん・・・

美菜が
側にいてくれる…
それは
俺が望んだ
ことなのに…

それでも…

俺は美菜に
睡棄(だき)して
欲しかった…

今の俺の選択を
軽蔑して欲しかった

ありったけの
怒りをぶつけて
糾弾して欲しかった

ルナを見捨てた
非道な男だと…

こんな許しなど
欲しくは
なかったのに…

なんで
美菜は

こんなふうに
笑えるんだ…

星座の話は
ギリシャ神話でも
あるんだ

星を指さして
くれたら
それにまつわる
神話を語って
やるよ

はいっコレ
俺が用意した
特製ジュース…

ありがとう
博識なのね

ガキの頃
泊まりがけの
青少年自然の家に
行った時

あっ…
甘い…

ヒロトが
空気を読まずに
俺の横で喋り続けたから

まったく
インテリって奴は
自分の持っている
知識をひけらかさないと

ストレスで
死んでしまう
哀れな人種だよな…

ねぇ
あれは？

あぁ…あれは
乙女座だな

冥界の
女王の星座…

ハデスの妻になる
ペルセポネの逸話…

ｸﾞｯ

出口は…

塞がれて
いるか…

空はこんなに
開けているのに…

ココは閉ざされた
密室のようだわ…

突然っ彼が豹変して
ホテルに連れ込もうと
したんですよ！

もっびっくり

元同僚の女が
そんなことを言って
いたかしら…

ﾋﾘﾘﾘ

そんな台詞が出るのは無能の証左だと思っていたけど…

男の裏側を見る目がなければ夜の世界では蝶は飛べない…

飛べたとしても低空飛行しかできない

カチ

哀れな蝶…

悪知恵を働かせたハデスはペルセポネに魔性の柘榴を与えていたんだ

しかし柘榴は死者の国の食べ物だったんだ

無知蒙昧に
生きていた彼女は

そんなことも
知らずに
口にした…

ビクン

ポタ

ポタ

なのに…
この島では

生きていくには
腐った花の蜜でも
啜らなきゃならない…

ヒルっ

男のプレゼントには
必ず下心が
あるってことを
知ってか知らずか…

ぶるっ

ぁ

平凡に暮らしていた
女神を
強引に冥界に
攫った逸話…

きっとハデスは…
この男のように
淫欲に塗れた
目をしていたんだわ…

ビクン

柘榴を食べた
ペルセポネは

冥界の王ハデスに
従うことに
なってしまったのさ

ヒソ

それと…君が
口にしているのも

俺特製の
柘榴の
ジュースだ…

…つまりだ
貰うもんだけ貰って
代償を払わないなんて

舐めたことは
許されないって
わけさっ！

11

ゲボ

ゲボ

ハァハァ

普段の俺は
女を殴ることは
できない
優しい男なんだが…

ただ必要があるなら
ぶちのめすのは
仕方がないと
思っているんだ…

お前は
俺をコケに
しやがった

売女の分際で
調子に乗りやがって

ドクン

あうっ

ひっ…

女だから護ってやるの
ボランティアは
もう終わりだ…

ビク

これからは
喜んで尻を振るように
躾けてやらぁ…

ゴゴゴ

できました〜♪

はいあーん

それは？

半固形の澱粉？
ねっとりとして
ほんのりと
甘い香りが…

モグ
モグ

なんだ
これは？

それは
愛液です

アッ
ハイ
すいません

代替愛液
ですね

トロ〜ッ!!!

山岳地帯に
昔から生きている
とある部族が使っている
プランティン（バナナ）を使った
天然ローションです

これを股ぐらに
塗り込んで
望まぬ男性と
性交渉をする時に
使うんです

まぁ擦過傷（さっかしょう）を
防ぐ為と
聞いてます

何故
そんなモノを？

そりゃ明日から
ルナさんには
必要になる
でしょうから…

これから
毎日カラミヤサンに
犯され続けるん
ですから

カワイソーだから
これをプレゼントして
あげようと
思っているんですよ

第八話 ―鬼夜行(1) END

第九話 一鬼夜行(2)

はぁ…

それに生臭い吐息が
不快感でしかない…

指先の感覚が
ない…

ヒィ

お…お願い
やめて…

はぁ？…
何言って
いるんだ…

ヒィ

こうなるって
お前もわかって
付いてきたんだろ

きゃっ
きゃあああっ！

あぁンっ
うるせぇなっ！

処女じゃあるまいし
ギャアギャア喚くな

お前は
逃げられないの
だからな…

…口でっ
そうっ口で
してあげるわっ！

それで
満足でしょっ!!

はぁ？
何ほざいて
いるんだ…？

だいたいお前は
真っ昼間から

ヒロトの
粗末なチンコを
咥えて喜んで
いたんだろ

ヒィィィ

だったら俺はそれ以上のコトをしてもらわねえとなぁ

いやあぁあああっ！

ずっと男に振り回される人生だったとしても…

ガッ

男がいなければどうしようもなかったとしても…

ズズズ

嫌だ――

絶対に嫌だっ！

ったく
最初から
股を開いて

ハァ

ハァ

は

は

それが…
どんなに
薄汚れていても

大人しく
俺のモノを
咥えていれば

ハァ

手荒なことは
しなかったのに…

ハァハァ

せめて
自分を持ってっ

ぐぅ…
テッテメエ！

ぶごっ!!

ガッ

ガッ

ガッ

逃がすか
待ちやがれっ！

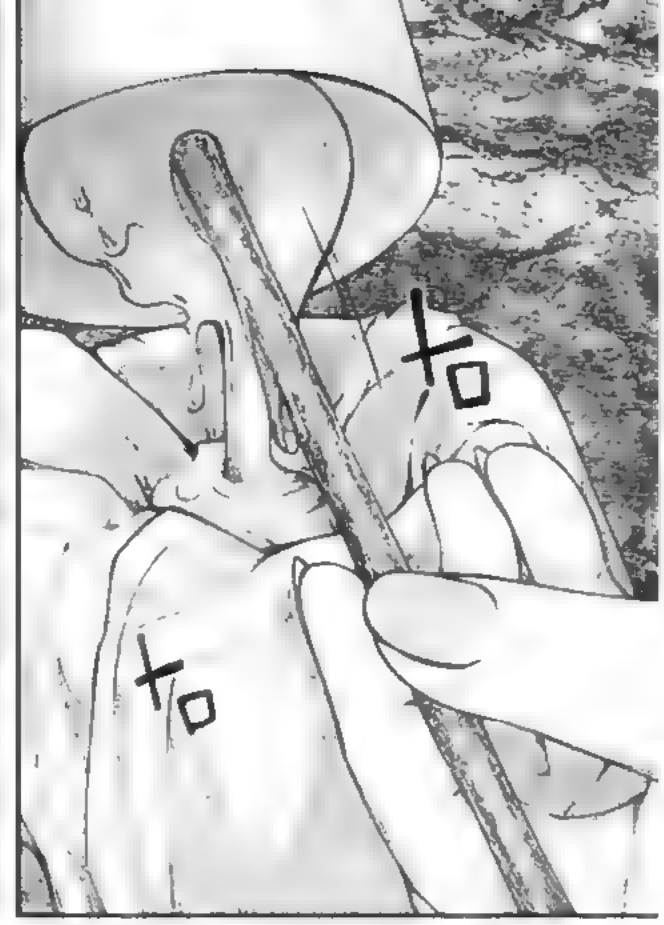
ガッ

ガッ

ガッ

ぐあぁぁあっ!!

ハァハァ



コレがあれば
明日からルナさんも
スルッと
受け入れられる
はずです…

君は…
どんなことを
考えているんだ？

美菜…

随分と抽象的な問いですね
今はちょっと眠いなぁ…っと思っていますよ
言い方が悪かったな…
君はルナをどう思っている？

ルナさんですか…
別にどうとも思っていませんが…
コト…
きっと明日には従順で素直な人になっていると思っています

それなら
唐宮は？

カラミヤサンは
どうでもいいです

ただ
自己愛の強い人って
感じですか…

なら…
俺のことは？

ヒロちゃんは…
ですか…？

そうですね…
私の水玉パンツを
たまにチラッと
見ている人…

でしょうか？

ドキッ

なら履せよっ！

ぶーっ

ぶーっ
それはそれで
面倒くさいです

冗談は
さておき

ヒロちゃんは
「素質がある」
…でしょうか？

今夜は
月が出ていて
比較的明るい
ですね…

だから
火を
使わなくても

ココで
作業をするには
困らない

それに
森からヒロちゃんの
作った偽装に
向かうには

目の前(アソコ)の砂浜を
通るしか
方法がない…

そう考えれば
ココは良い
位置取りですね

追い詰めるにしても
逃げるにしても
最適な場所です

ふふん。

私が犯人を
追い詰めるとしたら
この場所を選んで
いたと思います

やっぱり
ヒロちゃんは
私が見込んだだけの
ことはありますね…

き…君は
ルナを助けられる
力を持っている

俺と違って
君は唐宮となんの
しがらみもない

それについては
どう思う…？

うーん…
助けに行って
私になんの
メリットが
ありますか？

そんなに
気になるんでしたら
私を
納得させてください
そうしたら
助けに行っても
いいですよ

それなら
義侠心や倫理を
護る心が満たされる
とか思わないか？

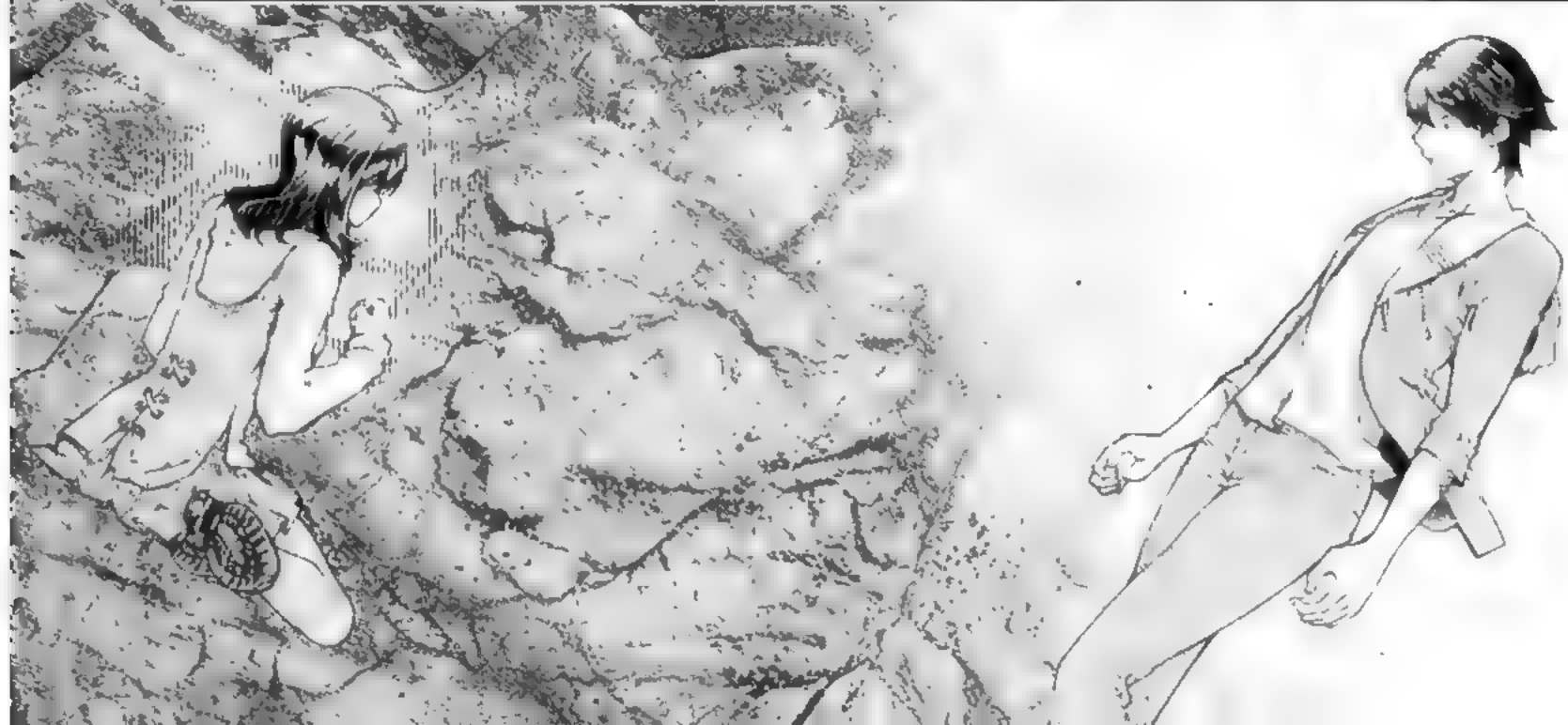
ばん

倫理ですか…
くだらない…

えっ…
あいにく
それらには
興味がないですね

義侠心？
倫理？
だったら
ヒロちゃんが
行けばいいじゃ
ないですか

カッコよく
飛び込んで
助ければ
今度は
フェラチオ以上の
コトをして
もらえますよ
美菜っ！



そうやって
大声を出さないと
心がざわつくのは
わかりますが

何か勘違いして
いませんか？

私はヒロちゃんに
お願いされて
ココにいるんですよ

そうだ…
利害の計算は
済んでいた

友情も義理も
通せる…

こんな状況だ
良心なんて
なんの価値もない…

そ…
そうだったな
すまない…

俺はルナを
見限った…

今後のことを
考えれば
…それが

正しい選択だったんだ

わかって頂けましたか？

なんて
なんて

ならば…私はもう寝ます

あっそうだ…
起こさない程度ならイタズラしてもいいですよ

ゴロ…

おやすみなさい

誰がするか…

なのに…
なんで

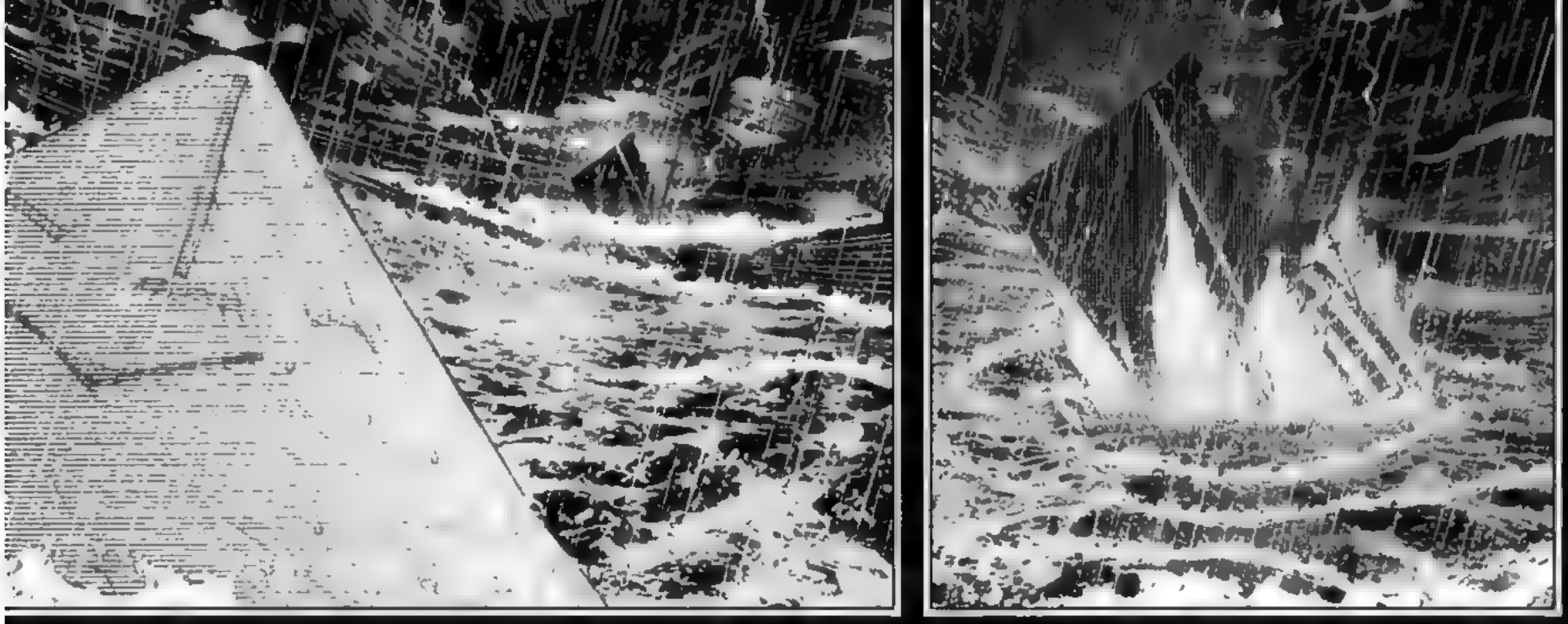
このもどかしさが
消えないっ！――

ねーっ
ねーっ

警戒心も
何もないな…

きっと俺が
手を出せない
意気地なしと
わかっているんだな…

はぁ…



もしあの船が
何もないまま
航海を続けていたら
こんな苦難もなく
無事に目的地(サイパン)に
着いていたのか…

それとも
もっと面倒臭いことに
なっていたんだろうか…？
そこでは
ルナにも出会わず

コロン

ん…？

そして
美菜にも…

とすっ

美菜が
傍に居ると
俺も頑張れる
だろうか…

ん…

チュッ

カ!!

っ！
…スマン

おい…
美菜？

しっ！

ふーっ…

あれが
敵だった場合…

ヒロちゃんは
後ろに回り込んで
ください

はっ

私は正面から
攻撃しますから

相手が銃器を
携帯していた場合

コン!!!

先手を取らないと
二人とも
死にますから

足音は…
一つ…

ペキ

ペキ

ヒロちゃんが
後ろに
回り込めなくても

私がヒロちゃんを
盾にして
必ず仕止めますっ

準備は
いいですか？

盾か…

上等っ

行きますっ

応っ！

ヒ…ヒロトくん

!?

えっ…ルナ？

第九話 一鬼夜行(2) END

第十話 一鬼夜行(3)

助けて…
お願いっ！

ルナ…

わ…わたしっ

あ…あの…

これは…

ルナの身体に目立った外傷はない

…ということは

それは…唐宮の血か？

唐宮(アイツ)を殺したのか…？

ちっ違うわっ

そ…その…
ちょっとだけ
肩を刺しただけよ…

あーあ…
もう犯される
だけじゃ
済みませんねぇ

ドリルッ

ハァ…ハァ…

折角(せっかく)愛液まで
用意したのに…

残念です

私犯されそうに
なったのよ…

だからついっ

とりあえず
下脱しまヒんか？
丸見えですよ…

そんな…

付き合いが長い
俺にはわかる…

ここまでされた
唐宮が
このまま済ます
とは思えない…

しょうがない
でしょ！

それで
彼が怯んだ
その隙にっ

ヒロちゃん
…これ
どうします？

まっ
待ってっ！

タ…タダとは
言わないわっ！

そうっ
一人に付き
百万あげるっ！

その女性は
お金の為に
男性の樹液を
飲んできた人です

絶対に
そんな大金は
渡しません

コトが済めば
またヒロちゃんの
樹液を飲んで
有耶無耶(うやむや)にします

なんで
そんなことが
言えるのよっ！

私の口座には
二千万以上あるのよ
二百万(にひゃくまん)ぐらい
どうってことないわ

つまり…
ルナさんの
処女の価値は
二百万ってコト
ですね

ブイ

茶化さ
ないでっ！

お願いっ
ヒロト君…

舐めてあげた
じゃない

ちゃんと
言うことも
聞いてあげた
でしょっ！

私 強姦され
そうに
なったのよ

あのですね…
こっちは貴女(あなた)が
レイプされるのは
知ってましたよ

はあっ

その上で
取引は終わって
いるんです

ドドド

え…？

なっ…

ヨロッ

だとしても！
まだ犯されてはいないわっ！

ああ…
最悪だ…

だっ…

ガシッ

ばっ

最低の事態が
さらに最悪に
なってる…

だから…
今からでも
助けてっ！

ここで
俺は彼女を
助けるか
…否か

ひょっとして
助けるつもり
ですか？

…思案中だ

ルナさんを抱きたいのですか？

その友達と縁を切ってでも

だから思案中だっ

ふーん…

だったら私はヒロちゃんと縁を切ることにしますか…

ピロロロ

美菜は誰にも頼らない…

そしてルナは誰にでも頼る…

ピロロロ

この二人の
立ち位置は
まさに対極だ…

失う物と
得るもの…

メリットと
デメリット

美菜…

美菜を失うの
は惜しい

生活力も
知識もあり

なにより
一緒だと
心地がいい

ルナを助ける
善行による
効果と

ルナを見捨てる
悪行による懲罰(ちょうばつ)

俺の人生は
そんなものを
天秤にかけている

この島に
流れ着いても
変わらない…

俺の
人生の価値観は
利害と合理で
凝り固まっている

どいつも
こいつも
いつも…

はあ。

…そして
俺も

おぞましいほど
腐りきった
クソッタレだ……

ルナ…
助けるにあたって
三つ要求する

あっ…
ありがとう…
助かるわっ

なるほど…

結局…そういう人だったんですね

どいてろ

ちょっ…ちょっとっ

!?

ドロロロ

そこで
海水浴でもして
隠れていろ

ふう…
そういう人…

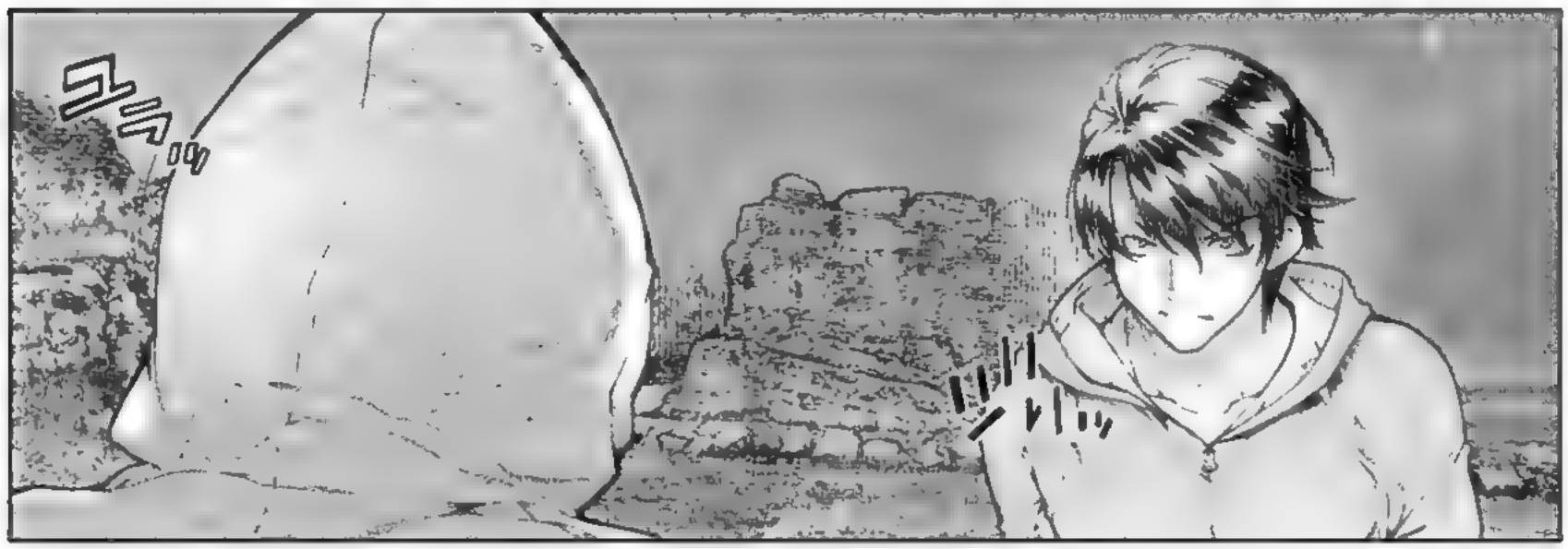
…というのが
どういう人なのか
わからないが

あーあ…
本当にガッカリ
ですよ

…ヒロトさん

詭弁を使う
つもりですか？

俺が彼女を取って
君と唐宮を捨てたと
思われるのは心外だな



ドゴ

ドゴ

ドゴ

ドン

あーそういう
ことですか…

モテないから
あの女で
済まそうと？

ハイィ

はぁ…
君が俺をどう思って
いるか知らないが

俺は
君が思っている
以上に…

排他的で
閉鎖的な
人間だっ

フっ
フフフ…

それは
それは
素敵な人種
ですね

唐宮（アイツ）はしくじった…

俺は友達としてここから先の後片付けをしなきゃならない

…それは便利な友達ですね

まぁこういう後始末（経験）は初めてじゃないからな…

なら精々(せいぜい)…

頑張ってください！

ハァハァ

ハァハァ

ハァハァ

パラ

パラ

この状況で
片目だけを
守った…!?

ヒリッ

…!?ッ

ギリ

ギリ

目をつぶると
周囲がわからなく
なるから
ワザと片方を捨てたっ?

さくっ

あっ

Wow

ありえない
眼瞼閉鎖反射を
抑え込むなんて…

ヒロ…

ハァハァ

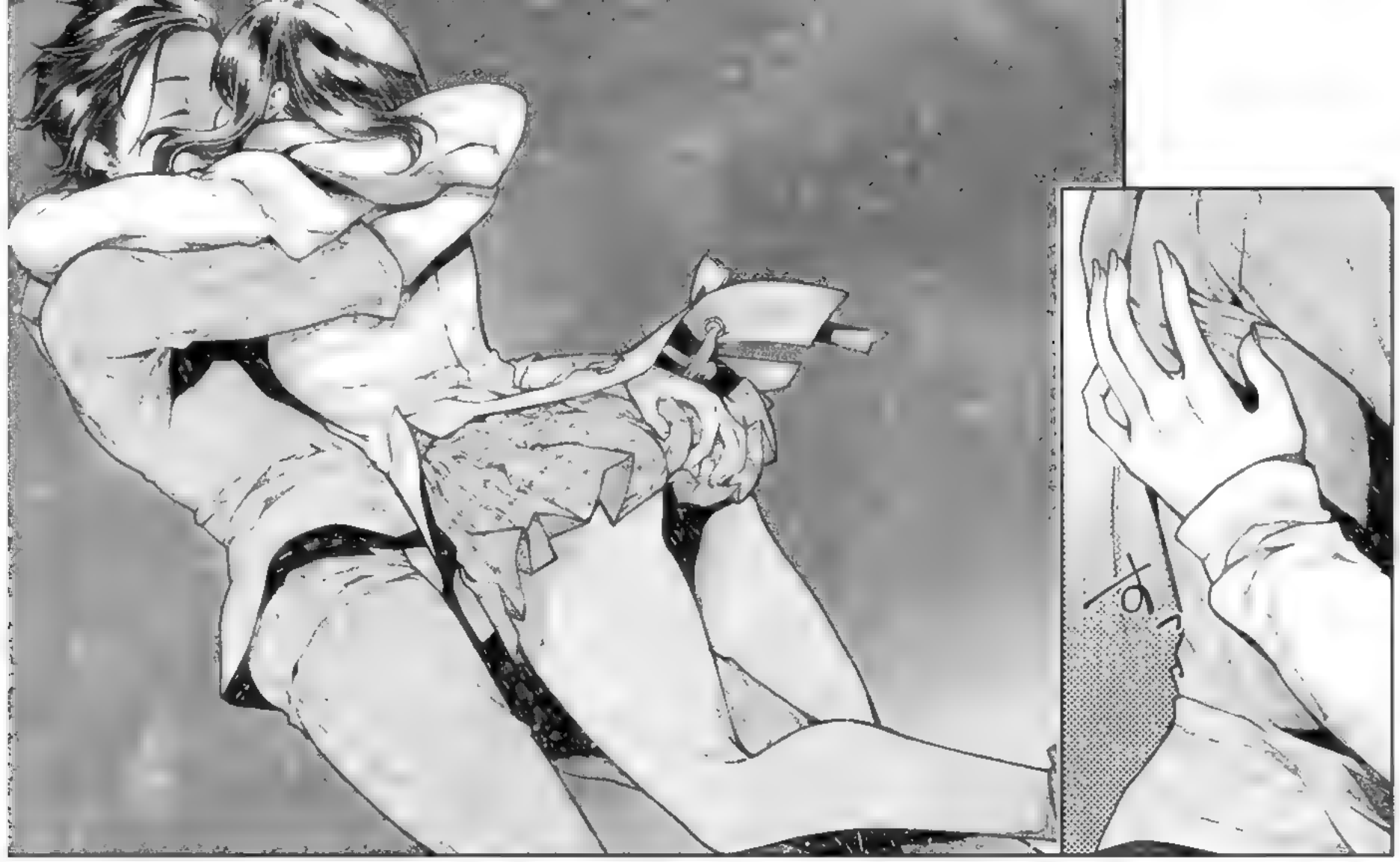
くそっ
あの女…

ポタ…

こんなことなら
あの綺麗な顔を
ボコボコにして

大人しく
なってから
犯せば良かった…

もう許せねぇ
次は容赦(ようしゃ)しねぇ



チッ…あっちは
お楽しみの
最中かよ
ヒロトがルナを
捕まえてくれて
いたかと思ったが…

アイツの
ことだから
ルナを見つけたら
両手を縛り上げて
押さえ込んでくれて
いたハズだ…
だったら
向こうには逃げて
いないのか…

あぁ…
血が止まらねぇ

そのせいか…
興奮が
抑えられねぇ…

クソっ！
ヒロトだけ
上手く
やりやがって…

こんな無様な姿を
晒すくらいなら
一人で追い詰めてやる

それこそ
もう誰でも——

モグ!!
モグ!!
モグ!!
モグ!!
モグ!!
モグ!!
お前
超淋病(スーパーりんびょう)か…？
モグ!!

妖精さん…？

あなたは妖精さんなの…？

ねぇ…

ゴクリ…

あぁ…俺が妖精さんだ…

ニチャア

第十話 ―鬼夜行(3) END

ドピュッ
ドピュッ
ドピュッ

砂は洗い流せましたか？
ちゃんと流さないと眼球に傷が付きます
最後に これで洗い流してください

あぁ…自分もアホなことをしたと思っているよ
ありがとう

うぅ…海水がしみる…

まったく…
肝が据わって
いるというのか
後先を考えて
いないというのか…

ゴソ
ゴソ

そこまでしないと
お前を抑え込む
ことはできないと
思ったからな…

そうですか…

それはそうと
さっきの続きを
しますか？

んっ

キス（アレ）は
唐宮を避ける為の
演技だ

これ以上
続けても
意味がない…

なんというか
私はヒロちゃんを
殺してもいい気が
してきました

第十一話 一鬼夜行(4)

ドドド
ドドド
ドドド
ドドド
ドドド

唐宮から君を守った
三つの要求について
話をしたい

ドドド
ドドド

さっきと…

まず一つは
唐宮(アイッ)を
起訴しないで
もらいたい

スッ

警察に訴えるな
…ってこと？

あぁ…コレで
アイツを刺して
いたようだし
気も収まった
ことだろう？

…

…わかったわ

それから
二つ目は…

二度と
唐宮に色目を
使わないでくれ

…それは
彼以外には
使っても良い
…ってことかしら？

…あぁ
そうだな
そう思ってくれて
構わない

スッ

最後に
三つ目は…

とりあえず
一発だっ

ちょっ…

フラ

フラ

…ヒロトさん？

ゴゴゴゴゴゴゴゴ

勘違いするな
こっちの一発だ

ハーハー
ハーハー

あっ…

がっ…

何故唐宮(アイツ)に
色目を使った？

ハーハー

肉体関係を
求められるのが
嫌だったら

最初から
色目なんか
使わなければ
良かったんだ

思わせぶりな
態度を取れば
思い通りに
操れるとでも
思ったのか？

唐宮(アイツ)を
コケにしなければ
こんなことには
ならなかったはずだ

ハッ

なぁ…
答えてくれ

アンタは
こんな状況を
作っておきながら

まだ俺に
色目を使っても
良いと確認してきた…

そうさ…
唐宮はまだ優しい
…俺とは違ってな

俺は今…
アンタの顔を
ボコボコにして

その美貌を
二度と見られない
ようにするか
悩んでいるんだ

その顔を潰せば
二度と色目は
使えないだろうしな

ぶるる

た…助けて…

報酬に百万円を
くれるんだろ…

この島から
帰ったら
治療費と整形費に
使ってくれ

あっ…あぁ…

この島で
まともに生活が
したかったら
ルールは守れ…

その上で
貞操も守りたかったら
髪を全部切り落とせ

それでも
ダメなら
眉毛も剃れッ

そうすれば
殴り潰さなくても
唐宮も興味も
失くすだろう…

ばしゃん

わかったな

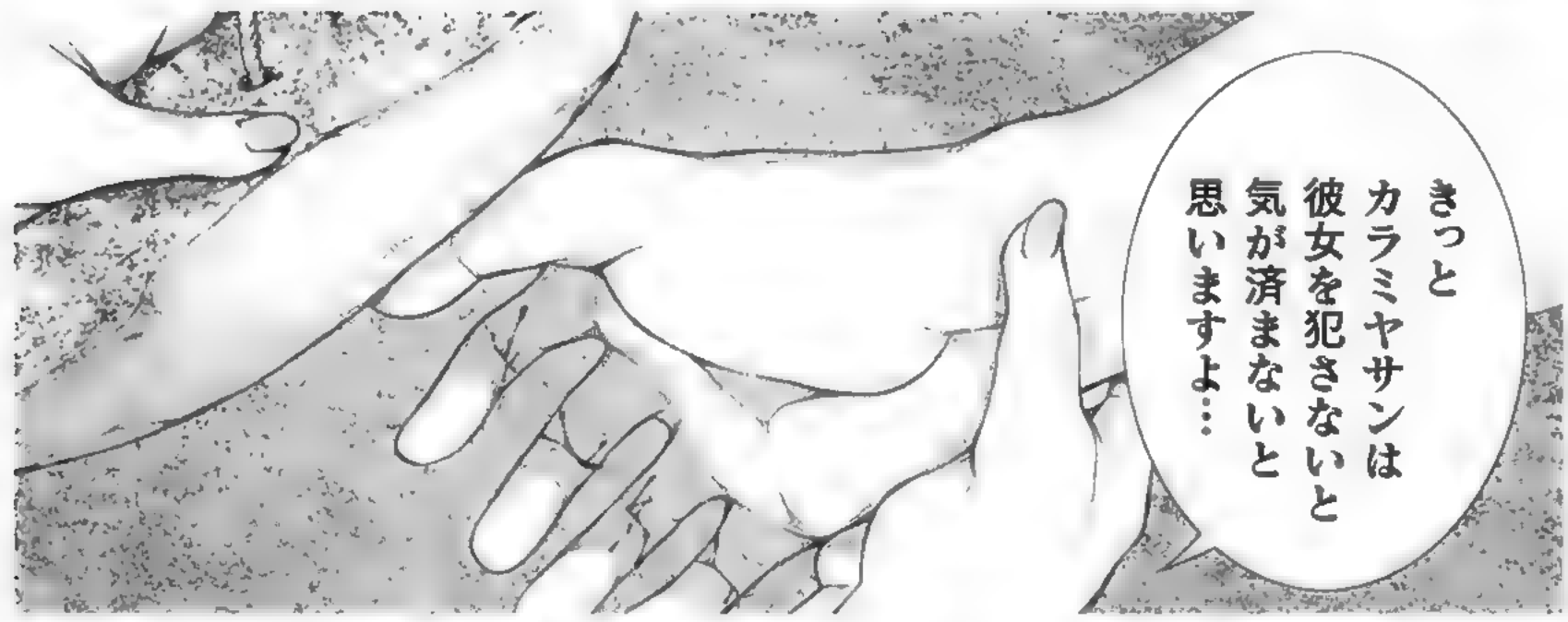
唐宮と話を
付けてくる

今日は
安心して寝ていろ

ゴゴゴ

見事な
後始末ですね

す…
言っただろ…
慣れているって
コレから
カラミヤサンと
話を付けに
行くんですか？


きっと
カラミヤサンは
彼女を犯さないと
気が済まないと
思いますよ…

はぁ…
…だろうな？

ならやっぱり
犯させますか？

それは
無しだ…

説得に失敗したら
足腰を立たなく
なくなる程度に
痛めつけてから
木に縛って管理する

それが
ヒロちゃんが
言う友達？

モキュ

あぁ
友達だからだ…

モキュ

勘違いするなよ
俺はただ一度の過ちで
アイツの輝かしい
未来を奪わせたくない
だけなんだ

——ふと
思う時が
あるのだが…

これは
唐宮の為の
処置なんだ

美菜は俺に
何を求めて
いるんだ…？

モキュ

ふーん…

怒ったり…
試したり

まるで
理想の何かを…

…そう
まるで美菜の求める
人物像を俺に
求めているような…

ドカ!!

それでも
駄目だった
時は…

カラミヤサンを
殺しますか？

キラ
キラ

たとえ
輝かしい未来が
あったとしても

この島で生きるには
今のカラミヤサンは
害でしかない…

排除…が
一番正しい選択だと
思いませんか？

――落ち着け

俺は唐宮を
破滅させたくないから
ルナの顔面を殴ってまでして
この状況を作ったんだ

今ここで俺まで
本能のままに
行動に移せば…

俺は…

トロ〜ン

そうやって
俺の脈を測って
精神状態を
分析するな

おやっバレて
いましたか…

クスクス…
やっぱり
ヒロちゃんには
素質がありますよ

何気なく
広範な知識を
使うな…

クス

それはそうと
ヒロちゃんは
私のファーストキッスを
奪った件については
どう思っていますか？

そうだな…
ひとまずアソコで
動かなくなってる
ルナを介抱しておいて
くれないか？

少々脅しが
効きすぎた

慰めてやって
くれると助かる…

アレのことは
どうでもいいです

なんで
私が？

取りあえず
ヒロちゃんは
話を逸らすのが
下手なのは
わかりました

……

こうなったら

ヤッ
ヤッ

民事と刑事
両方ですっ！

私は
この島から出たら
ヒロちゃんを
告訴することに
決めましたっ！

そうですね
無人島サバイバルの
次は
法廷サスペンスです!!

あっ…
冗談と思って
いますね？

いや思って
いないから…

むしろ島から出てからも美菜に会える口実ができて喜んでいるんだよ

おぉ。

えーっと…

もじもじ

なんか照れますね…

…そっか

w.Net

それじゃ
法廷でしっかりと
説き伏せられるように
唐宮(アイツ)で練習を
しておくか…

ほほう…
それは傍聴(ぼうちょう)しがいが
ありますね…

DL-Ra

はー
はー
はー
ふう…
注文したのが
脂肪分がたっぷりの
ステーキだったのに
ふう
出てきたのが
魚肉ソーセージ
だったような
気分だぜ…
ケホッ

まぁ…それでも贅沢は言ってられねぇか

こんな穴でも使えるだけマシだしな…

ガクッ

さっきは紳士的に行動したから上等な肉を逃してしまったが

だったら簡単だ…

今度は徹底的に動けなくしてから犯せばいいだけだ…

どうせ使い捨てだろ誰も困りはしねえ…

ガバッ

そうだ…私はこの島で一番弱い存在…

DL-Ra

犠牲になるのは
いつも弱い人達…

そんなことは
身に染みて
わかっていた
はず…

ごめんなさい

ごめんなさい…

私は…
そのおこぼれに
甘えていた
薄汚い人間なの…

w.Net

『恋獄島』原作小説
好評発売中!!

極地恋愛

【小説】七色春日　【イラスト】魁李

島に漂流した五人の男女。
極限状態に陥った時……本能と良心、それぞれの思惑が交差し衝突していく！

乗り合わせた船が沈み、南海の孤島に流れ着いた二人の男と三人の女。
漂流者たちは各々の方法で必死に生き残るすべを探す。
交差する思惑と愛憎、信頼と裏切り。抑えきれない性欲、そして殺意……。
極限状態に陥った時、人間のエゴイズムが醜くも美しく露わとなる、
孤島サバイバルサスペンス！

ビギニングノベルズにて
1〜2巻好評発売中!

編集・発行 キルタイムコミュニケーション
〒104-0041　東京都中央区新富1-3-7 ヨドコウビル　TEL:03-3555-3431(販売)　FAX:03-3551-1208

最新情報はオフィシャルサイトへ　キルタイムコミュニケーション　検索

単行本第③巻
2022年夏頃発売予定

恋獄島
～極地恋愛～

ヴァルキリーコミックス
恋獄島②
極地恋愛
【電子書籍版】

著　者
九部玖凛

原　作
七色春日

キャラクター原案
魁李

装　丁
マイクロハウス

発　行
株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041　東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル1F
●編集部 TEL.03-3551-6147／FAX.03-3551-6146
●販売部 TEL.03-3555-3431／FAX.03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

© 九部玖凛 ©Nanairo Kasuga 2021
当ファイルは、ヴァルキリーコミックス『恋獄島　極地恋愛②』
（2021年12月16日　初版発行）に基づいて作成しております。
https://ktcom.jp/

※この物語はフィクションであり、実在の人物・団体とは一切関係ありません。

本作品のご意見、ご感想をお待ちしております

本作品のご意見、ご感想、読んでみたいお話、ジャンルなど
どしどしお書きください！　読者の皆様の声を参考にさせていただきたいと思います。
手紙・ハガキの場合は裏面に作品タイトルを明記の上、お寄せください。

◎アンケートフォーム◎ **https://ktcom.jp/goiken/**

◎手紙・ハガキの宛先◎
〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコウビル
(株)キルタイムコミュニケーション　ヴァルキリーコミックス感想係

w.Net

coverdesign:SiMd

歪み始める漂流者たちの人間関係。

暴力に屈して孤立する者、

女の武器を使い男の欲望を刺激する者、

計算高く立ち回る者、

本能を暴走させる者、

そして――。

島内に謎の襲撃者の痕跡も見つかり、

過熱していくサバイバルサスペンス！

w.Net

DL-Ra

converse